

室・事業所名		〇〇 事業所															
番号	危険場所・作業名等	危険有害要因	予測される災害	検討	リスクの見積り				リスク低減対策	対策後のリスクの見積り				対策	残留リスク 継続検討事項	実施推 進者の 印	実施管 理者の 印
				月 日	発生 の頻 度	発生 の可 能性	重篤 度	対策 の優 先度		発生 の頻 度	発生 の可 能性	重篤 度	対策 の優 先度	月			
														日			
1	冷凍機室(高所) ファンベルト 点検・調整・交換作業	・垂直梯子昇降時転落 (地上から約5m) ・高所足場から足場へ の移動時墜落	高所からの転 落	H22 5月 10日	1	4	10	15 Ⅳ	・作業時安全帯着用 ・昇降時は三転支持厳守 ※H23年6/23対策完了 安全歩廊増設工事実施 (点検足場、移動歩廊設 置)	1	1	3	5 Ⅰ	H23 6月 23日	無し		
2	△△ 橋 蒸気・還水配管点検作業	・非常に狭い点検通路 での作業の為、頭や足 を強打する恐れがある ・常時屈んだままの体 勢となる為、腰や膝に 負担がかかる	打撲・裂傷・腰 痛	H23 6月 17日	2	6	6	14 Ⅳ	・安全帯完全着用 ・適宜休憩し長時間無理 な体勢とならないよう注 意する ・慌てずにゆっくり点検す る	2	1	1	4 Ⅰ	H23 6月 18日	安全帯着用でも強打す ると首への負担がかか る		
3	冷却水縦配管点検作業	地下階から屋上階まで 縦配管が通っており、 サル梯子で昇降する。 各階通過部はマンホー ル蓋があり、サル梯子 上部に片手で握りなが ら片手で蓋を開閉する ため、転落の危険があ る	転落による骨 折・打撲・重大 災害	H22 5月 20日	1	4	10	15 Ⅳ	サル梯子に背籠を設置す る。 背籠に体をあづけ られるため、蓋開閉の負 担が減少する。	1	2	6	8 Ⅱ	対策 要望 中			
4	冷却塔点検作業	・階段下の梁、配管等 に頭をぶつける可能性 がある ・高所での点検の為、 転落の危険がある	打撲・裂傷・転 落	H23 6月 23日	4	4	6	14 Ⅳ	・危険箇所には注意喚起表 示 ・トラテープクッション材取 付 ・作業帽・安全帯の着用 ・階段は 手摺を握りて昇 降する	4	1	1	6 Ⅱ	H23 6月 27日	無し		
5	冷凍機室 温水薬注タンク補給作業	・薬品補給時、配管に 足を掛けながら投入す る為、バランスを崩して の転倒や、薬品飛散によ る薬傷の危険がある ・薬品は重量物の為、 持ち上げる際、腰に負 担がかかる。	打撲・薬傷・腰 痛	H23 7月 26日	2	2	6	10 Ⅲ	・踏み台、ステップ等の設 置を要望中 ・安全帯、保護メガネ、ゴ ム手袋の確実着用 ・薬品を持ち上げる際は、 膝を落として、体全体を 使って行う	2	1	1	4 Ⅰ	対策 要望 中	無し		
6	冷却塔 水槽内吸込み口清掃作 業	・冷却塔水槽内の吸込 み口に滞留する異物を 除去する為、点検歩廊 より身を乗り出しての作 業となっていた。	転落・薬傷	H23 7月 26日	2	4	3	9 Ⅲ	胴長、長手袋購入 ・水槽内に入り作業出来る 為、転落の危険が無くなっ た。 ・肌の露出が減り、薬傷の 危険が軽減された。	2	1	1	4 Ⅰ	H23 8月 10日	無し		

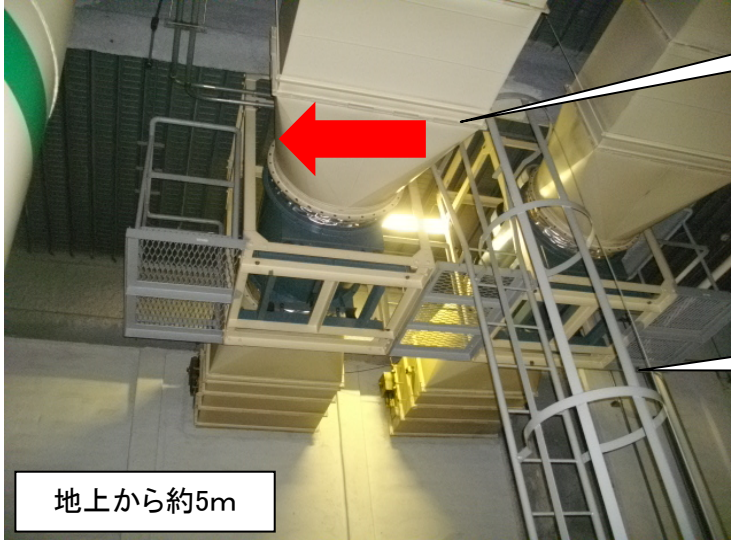
リスクアセスメント記入用紙

作業名: ファンベルト調整・交換作業(高所作業)

検討月日	平成22年5月10日
職場	〇〇事業所
氏名	A, B, C, D, E, F

	リスク分析		リスク見積			評価	
	現在の危険・有害要因	リスク内容	程度	頻度	可能性	総合	レベル
現	・高所の為、猿梯子昇降時の転落の危険。	ケガの種類	ケガの程度	作業の頻度	発生の可能性	合計点数	リスクレベル
	・ベルト交換作業や張り調整時は、梯子が一つしかない為、モーターを跨いで反対側足場へ移動により墜落の危険。	死亡	致命10	頻繁4	確実6	12~20	IV
		骨折	重傷6	時々2	高い4	9~11	III
		手・指挟圧	軽傷3	僅か1	低い2	6~8	II
			軽微1		少い1	5以下	I
	・ベルト交換時、手指の挟みこみの危険。						
		評価点	10	1	4	15	IV

現在の危険状況・概略図



高所にて足場から足場への移動時墜落

梯子昇降時の転落

地上から約5m

改善・対策後の状況・概略図

- ①猿梯子昇降時の注意事項を厳守する
 - ・昇降時の三点支持を守る
 - ・工具を手に持ったままで昇降しない
- ②足場から足場への移動、及び作業中は安全帯を確実に使用(写真参照)
- ③プーリーとベルトの隙間に指は絶対に入れない。
- ④梯子の追加、または上部連絡通路の設置(将来)



	リスク分析		リスク見積			評価	
	対策後の危険・有害要因	リスク内容	程度	頻度	可能性	総合	レベル
善	特になし。	ケガの種類	ケガの程度	作業の頻度	発生の可能性	合計点数	リスクレベル
		手・指挟圧	致命10	頻繁4	確実6	12~20	IV
			重傷6	時々2	高い4	9~11	III
			軽傷3	僅か1	低い2	6~8	II
			軽微1		少い1	5以下	I
		評価点	3	1	1	5	I

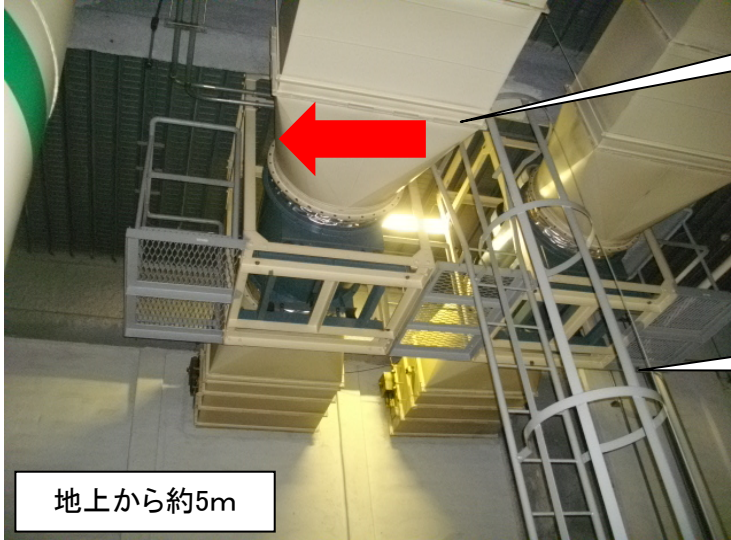
リスクアセスメント記入用紙

作業名: ファンベルト調整・交換作業(高所作業)

検討月日	平成22年5月10日
職場	〇〇事業所
氏名	A, B, C, D, E, F

	リスク分析		リスク見積			評価	
	現在の危険・有害要因	リスク内容	程度	頻度	可能性	総合	レベル
現	・高所の為、猿梯子昇降時の転落の危険。	ケガの種類	ケガの程度	作業の頻度	発生の可能性	合計 点数	リスク レベル
	・ベルト交換作業や張り調整時は、梯子が一つしかない為、モーターを跨いで反対側足場へ移動により墜落の危険。	死亡	致命10	頻繁	4	12~20	IV
		骨折	重傷6	時々	2	9~11	III
		手・指挟圧	軽傷3	僅か	1	6~8	II
			軽微1		少い	5以下	I
	・ベルト交換時、手指の挟みこみの危険。						
		評価点	10	1	4	15	IV

現在の危険状況・概略図



高所にて足場から足場への移動時墜落

梯子昇降時の転落

地上から約5m

改善・対策後の状況・概略図

- ①猿梯子昇降時の注意事項を厳守する
 - ・昇降時の三点支持を守る
 - ・工具を手に持ったままで昇降しない
- ②プーリーとベルトの隙間に指は絶対に入れない。
- ③H23年6/23安全対策工事完了(写真参照)



	リスク分析		リスク見積			評価	
	対策後の危険・有害要因	リスク内容	程度	頻度	可能性	総合	レベル
善	特になし。	ケガの種類	ケガの程度	作業の頻度	発生の可能性	合計 点数	リスク レベル
		手・指挟圧	致命10	頻繁	4	12~20	IV
			重傷6	時々	2	9~11	III
			軽傷3	僅か	1	6~8	II
			軽微1		少い	5以下	I
		評価点	3	1	1	5	I

リスクアセスメント記入用紙

作業名： 橋の内部 蒸気・還水配管点検作業

検討月日	平成23年6月17日
職場	〇〇事業所
氏名	A, B, C, D, E, F

リスク分析			リスク見積			評価																																									
危険・有害要因	狭所での点検作業	リスク内容	程度	頻度	可能性	総合 合計 点数	レベル リスク レベル																																								
現 状	点検の際に、非常に狭い点検通路・点検口を 通るため頭や脛をぶつける恐れがある。	打撲 裂傷 腰痛	致命10	頻繁4	確実6	12~20	IV																																								
	重傷6		時々2	高い4	9~11	III																																									
	軽傷3		僅か1	低い2	6~8	II																																									
	軽微1		少い1	5以下	I																																										
	評価点		6	2	6	14	IV																																								
	現在の危険状況・概略図																																														
	① 屈んだ体勢のまま点検歩廊（約200m・20分）を通過するので腰に負担がかかり、痛める恐れがある。 ② 右写真のような狭い点検口（50以上）をくぐる時に頭や脛をぶつける。 ③ 点検通路中の梁を乗り越える際に脛をぶつける。 （通路中の梁も50以上）																																														
改 善	改善・対策後の状況・概略図																																														
	① 数か所広い場所があるので、適宜休憩をして無理な体制が長時間続かないようにする。 ② 安全帽の着用（この場所での作業は完全着用とする） ③ 足元に十分注意し、確実に梁を乗り越える。 点検作業は急がずにゆっくり行う。																																														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">リスク分析</th> <th colspan="3">リスク見積</th> <th colspan="2">評価</th> </tr> <tr> <th>対策後の危険・有害要因</th> <th>リスク内容</th> <th>程度</th> <th>頻度</th> <th>可能性</th> <th>総合 合計 点数</th> <th>レベル リスク レベル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">安全帽着用状態で、頭をたくさんぶつけると 首に負担がかかる。</td> <td rowspan="5">ムチ打ち</td> <td>致命10</td> <td>頻繁4</td> <td>確実6</td> <td>12~20</td> <td>IV</td> </tr> <tr> <td>重傷6</td> <td>時々2</td> <td>高い4</td> <td>9~11</td> <td>III</td> </tr> <tr> <td>軽傷3</td> <td>僅か1</td> <td>低い2</td> <td>6~8</td> <td>II</td> </tr> <tr> <td>軽微1</td> <td>少い1</td> <td>5以下</td> <td>I</td> </tr> <tr> <td>評価点</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>I</td> </tr> </tbody> </table>		リスク分析		リスク見積			評価		対策後の危険・有害要因	リスク内容	程度	頻度	可能性	総合 合計 点数	レベル リスク レベル	安全帽着用状態で、頭をたくさんぶつけると 首に負担がかかる。	ムチ打ち	致命10	頻繁4	確実6	12~20	IV	重傷6	時々2	高い4	9~11	III	軽傷3	僅か1	低い2	6~8	II	軽微1	少い1	5以下	I	評価点	1	2	1	4	I				
リスク分析		リスク見積			評価																																										
対策後の危険・有害要因	リスク内容	程度	頻度	可能性	総合 合計 点数	レベル リスク レベル																																									
安全帽着用状態で、頭をたくさんぶつけると 首に負担がかかる。	ムチ打ち	致命10	頻繁4	確実6	12~20	IV																																									
		重傷6	時々2	高い4	9~11	III																																									
		軽傷3	僅か1	低い2	6~8	II																																									
		軽微1	少い1	5以下	I																																										
		評価点	1	2	1	4	I																																								

リスクアセスメント記入用紙

作業名： 冷却水堅管室点検

検討月日	平成22年5月20日(木)
職場	〇〇事業所
氏名	A, B, C, D, E, F

リスク分析		リスク見積			評価		
現在の危険・有害要因	リスク内容	程度	頻度	可能性	総合 合計 点数	レベル	
現 状	①上階の点検の際に、猿梯子に掴まりながら、不安定な体勢で蓋を持ち上げる動作となる。 ②猿梯子には背カゴが無く、転落すると下まで落ちる可能性が高く、重大災害につながる。 ③蓋が重く、体勢が悪いため、体への負担が大きい。	ケガの種類	ケガの程度	作業の頻度	発生の可能性	リスクレベル	
		転落による打撲・骨折死亡	致命10 重傷6 軽傷3 軽微1	頻繁4 時々2 僅か1	確実6 高い4 低い2 少い1	12~20 9~11 6~8 5以下	IV III II I
		評価点	10	1	4	15	IV
	現在の危険状況・概略図						
 高さ4.6m 背カゴなし  ・梯子に掴まりながら、無理な体勢で上階の蓋を開ける作業となる。 ・蓋の重さが約5Kgあるためこの体勢では、体に非常に負担がかかる。							
改 善	改善・対策後の状況・概略図						
	①猿梯子に背カゴを設置。(平成22年中に設置決定) ②背カゴに蓋を持ち上げる際に足を掛ける場所を取り付け、無理な体勢にならないようにする。 ※添付 背カゴ設計図参照 ③ ②の設置により力を入れやすいため、体への負担が軽くなる。						
善	リスク分析		リスク見積			評価	
	対策後の危険・有害要因	リスク内容	程度	頻度	可能性	総合 合計 点数	レベル
	①蓋が重い。 ⇒この件に関しては、防災上(防火区画)の 関係と強度の問題上、検討が必要	ケガの種類	ケガの程度	作業の頻度	発生の可能性	リスクレベル	
		打撲 骨折	致命10 重傷6 軽傷3 軽微1	頻繁4 時々2 僅か1	確実6 高い4 低い2 少い1	12~20 9~11 6~8 5以下	IV III II I
		評価点	6	1	1	8	II

リスクアセスメント記入用紙

作業名: 冷却塔点検作業

検討月日	平成23年6月23日
職場	〇〇事業所
氏名	A, B, C, D, E, F

	リスク分析		リスク見積			評価	
	危険・有害要因	リスク内容	程度	頻度	可能性	総合	レベル
現 状	狭い場所の通過・高所から転落	ケガの種類	ケガの程度	作業の頻度	発生の可能性	合計 点数	リスク レベル
	梁や配管の下をくぐる時に、頭をぶつける。	裂傷 墜落	致命10 重傷6 軽傷3 軽微1	頻繁4 時々2 僅か1	確実6 高い4 低い2 少い1	12~20 9~11 6~8 5以下	IV III II I
	高所での点検のため、転落の恐れがある。						
		評価点	6	4	4	14	IV
	現在の危険状況・概略図						
	①配管や、梁、階段の下を通る際に頭をぶつけてケガをする恐れがある。 ②点検箇所が高所のため、転落の恐れがある。 (高所はすべて柵が設置されているが、階段の昇降時などに注意が必要)						
改 善	改善・対策後の状況・概略図		 冷却塔上部への階段				
	①頭をぶつける恐れがある危険箇所に、注意喚起表示を実施。(注意表示/トラテープ表示)⇒以前に実施 ② ①の箇所に更にクッション材を取付けを実施 ⇒平成23年度安全衛生週間にて実施 ③作業帽・安全帽を着用する。 ④階段の昇降時には手摺を掴んで昇降する。(右写真)						
善	リスク分析		リスク見積			評価	
	対策後の危険・有害要因	リスク内容	程度	頻度	可能性	総合	レベル
	特になし	ケガの種類	ケガの程度	作業の頻度	発生の可能性	合計 点数	リスク レベル
			致命10 重傷6 軽傷3 軽微1	頻繁4 時々2 僅か1	確実6 高い4 低い2 少い1	12~20 9~11 6~8 5以下	IV III II I
		評価点	1	4	1	6	II

リスクアセスメント記入用紙

作業名: 温水薬注タンク補給作業

検討月日	平成23年7月26日
職場	〇〇事業所
氏名	A, B, C, D, E, F

	リスク分析		リスク見積			評価	
	現在の危険・有害要因	リスク内容	程度	頻度	可能性	総合	レベル
現	・温水薬注タンクへ薬品を補給する際、投入口が高い位置の為、配管の上に足を掛けながら投入しなくてはならない。	ケガの種類	ケガの程度	作業の頻度	発生の可能性	合計点数	リスクレベル
	・投入中バランスを崩した場合、転倒による打撲や、薬品飛散による薬傷の危険がある。	打撲 薬傷 腰痛	致命 10	頻繁 4	確実 6	12~20	IV
	・薬品を持ち上げる際、腰に負担がかかる。		重傷 6	時々 2	高い 4	9~11	III
			軽傷 3	僅か 1	低い 2	6~8	II
			軽微 1		少い 1	5以下	I
		評価点	6	2	2	10	III

現在の危険状況・概略図



薬品重量12kg

投入口の高さを考慮すると、配管に足を掛けなければ補給は難しい。この為、足元は非常に不安定な状態となる。

改善・対策後の状況・概略図

- ① 踏み台またはステップを設置し、配管に上がらずに済むよう対策依頼中。(右写真参照)
- ② 作業着安全帽、保護メガネ、ゴム手袋の確実着用
- ③ 薬品を持ち上げる際は、膝を落とし体全体を使って行う。



	リスク分析		リスク見積			評価	
	対策後の危険・有害要因	リスク内容	程度	頻度	可能性	総合	レベル
善	無し	ケガの種類	ケガの程度	作業の頻度	発生の可能性	合計点数	リスクレベル
			致命 10	頻繁 4	確実 6	12~20	IV
			重傷 6	時々 2	高い 4	9~11	III
			軽傷 3	僅か 1	低い 2	6~8	II
			軽微 1		少い 1	5以下	I
		評価点	1	2	1	4	I

リスクアセスメント記入用紙

作業名: 冷却塔水槽内作業

検討月日	平成23年7月26日
職場	〇〇事業所
氏名	A, B, C, D, E, F

リスク分析		リスク見積			評価		
現在の危険・有害要因	リスク内容	程度	頻度	可能性	総合	レベル	
	ケガの種類	ケガの程度	作業の頻度	発生の可能性	合計点数	リスクレベル	
現 状	・冷却塔水槽内の冷却水吸込み口には、充填材やエリミネーター等の折れた破片や異物が詰まり、定期的に清掃する必要があるが、通常の運用状態での作業の為、点検歩廊から身を乗り出して、清掃を行っていた。	転落	致命 10	頻繁 4	確実 6	12~20	IV
		薬傷	重傷 6	時々 2	高い 4	9~11	III
			軽傷 3	僅か 1	低い 2	6~8	II
			軽微 1		少い 1	5以下	I
		評価点	3	2	4	9	III
現在の危険状況・概略図							
①長い鉤棒を使って異物除去を行っていた為、転落の危険がある。(写真参照) ②冷却水には防食剤が入っており、皮膚に付着したり、目に入った場合薬傷の危険がある。							
改 善	改善・対策後の状況・概略図						
	胴長・長手袋を購入 ・水槽内に入って作業できるため、転落の危険が無くなった。 ・肌の露出も少なくなり、薬傷の危険が軽減された。  						
善	リスク分析		リスク見積			評価	
	対策後の危険・有害要因	リスク内容	程度	頻度	可能性	総合	レベル
	特になし	ケガの種類	ケガの程度	作業の頻度	発生の可能性	合計点数	リスクレベル
			致命 10	頻繁 4	確実 6	12~20	IV
			重傷 6	時々 2	高い 4	9~11	III
		軽傷 3	僅か 1	低い 2	6~8	II	
		軽微 1		少い 1	5以下	I	
	評価点	1	2	1	4	I	